

## ヨハネの黙示録 2 章 8-11 節

## 七つの教会への七つの手紙(2)～スミルナ～

2:8 また、スミルナにある教会の御使いに書き送れ。『初めであり、終わりである方、死んで、また生きた方が言われる。 2:9 「わたしは、あなたの苦しみと貧しさとを知っている。——しかしあなたは実際は富んでいる——またユダヤ人だと自称しているが、実はそうでなく、かえってサタンの会衆である人たちから、ののしられていることも知っている。

2:10 あなたが受けようとしている苦しみを恐れてはいけない。見よ。悪魔はあなたがたをためすために、あなたがたのうちのある人たちを牢に投げ入れようとしている。あなたがたは十日の間苦しみを受ける。死に至るまで忠実でありなさい。そうすれば、わたしはあなたにいのちの冠を与えよう。 2:11 耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。勝利を得る者は、決して第二の死によってそこなわれることはない。』

はじめに

先週から、イエス様が直接天から七つの教会に送った七つの手紙を見えています。

「耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。勝利を得る者に...」七つの手紙の最後にこう書いてあるので、一つずつの手紙は特定の教会に書き送られたのですが、同時に全てのキリストの信者の為にも書かれました。勝利を得る者に全ての神の約束が実現されます。先週は長くなったため、約束の部分がインターネットのライブ配信では切れてしまったのもう一度言います。黙示録2:7 「耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。勝利を得る者に、わたしは神のパラダイスにあるいのちの木の實を食べさせよう。」

これは、人間の罪によって失われた永遠の命を与えられると言う約束です。勝利を得る者の意味の説明は2:26にあります。

黙示録2:26 「**勝利を得る者、また最後までわたしのわざを守る者には**、諸国の民を支配する権威を与えよう。」

つまり、最後までイエス様を信じ続けて、途中で信仰を捨てない人だけに約束が与えられているのです。今日一緒に見て頂きたい箇所は、二つ目の教会であるスミルナ教会宛に書かれた箇所です。七つの中で唯一の批判される場所のない、叱られていない教会なので安心して聞いて下さい。

## 1. イエス様の自己紹介。(2:8)

2:8 「また、スミルナにある教会の御使いに書き送れ。『初めであり、終わりである方、死んで、また生きた方が言われる。』

イエス様はそれぞれの教会に違う自己紹介をしています。なぜなら、イエス様はそれぞれの必要に応じて自分自身を現わして下さいからです。しかも、聖書ではイエス様は自分の全ての信者に個人的に自分自身を現わして下さいと書いてあります。イエス様の約束を信じて、そしてそれを公に告白する人に対して、イエス様は個人的に心の目を開き信仰の確信を与えて下さいます。それが無い限り、誰もイエス様の復活を信じられません。イエス様の信仰は復活の信仰なので、誰も生まれながら、その信仰を持ってはいません。信じてから、その信者が必要に応じてこれから平安の中で生きていく為にご自分の真実を現わして下さいのです。今回の自己紹介でも、二つの真実を伝えて生きている神の子としての姿を現わしました。

ここでは「初めであり、終わりである方」として紹介されています。その意味の説明は1:8にもっと詳しくあります。

黙示録1:8 「神である主、常にいまし、昔いまし、後に来られる方、万物の支配者がこう言われる。「わたしはアルファであり、オメガである。」

アルファとオメガは、新約聖書の原語であるギリシャ語のアルファベットの最初の文字と最後の文字なので、「アルファであり、オメガである」というのは、「初めであり、終わりである」と同じ意味になります。イエス様は神である主、常にいまし、昔いまし、後に来られる方、万物の支配者である。つまり、全ての主権を持って全ての物を支配しておられる永遠の神のひとり子です。しかも、全ての上にある王の王、主の主としてこの地上に再び来られて、その時は一回目とは違い、罪を赦す為に来られるのではなくて、全てを正しく裁く為に来られるのです。

これはその当時、スミルナの教会の信者達が一番必要としていたメッセージでした。イエス様は怖がる必要はない、と励ましと平安を与える為にこうしてご自分を紹介して下さいました。その励ましについて後でもっと話しますが、自己紹介の後半の部分についてももう少し話します。「死んで、また生きた方が言われる。」これは、死を打ち破ってよみがえられて、永遠に生きているイエス様が死ぬ前に断言した通りです。

ヨハネ11:25-26. 「イエスは言われた。「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。」 26 また、生きていてわたしを信じる者は、決して死ぬことはありません。このことを信じますか。」

先週にも見ましたがイエス様は死後の世界も含めて全てを支配しています。

黙示録 1:18 「1:18 生きている者である。わたしは死んだが、見よ、いつまでも生きている。また、死とハデスとのかぎを持っている。」

人が死ぬか生きるかを決めるのはイエス様ですし、それだけではなくて

死んで天国に行くか、地獄に行くかもすべてイエス様が決める事です。死とハデスのかぎを持つ、という意味は誰が死ぬか生きるか、イエス様はそれも決めます。そしてハデスは死後の世界の意味なのです。

ヨハネ5:21-23 「父が死人を生かし、命をお与えになるように、子もまた、与えたいと思う者に命を与えます。 22 また、父はだれをもさばかず、すべてのさばきを子にゆだねられました。

23 それは、すべての者が、父を敬うように子を敬うためです。子を敬わない者は、子を遣わした父をも敬いません。」 神様を敬うのはイエス様を信じて自分の主として受ける事から、始まります。

## 2. イエス様の励ましの言葉 (2:9)

黙示録2:9 「わたしは、あなたの苦しみと貧しさを知っている。――しかしあなたは実際は富んでいる。――またユダヤ人だと自称しているが、実はそうでなく、かえってサタンの会衆である人たちから、ののしられていることも知っている。」

七つの手紙の中でこれが唯一の批判されるところのない教会への手紙です。イエス様は励ます言葉として「あなたは実際に富んでいる」と言って力づけています。スミルナ教会は迫害と苦しみの中にいて、その迫害は少なくとも一部は形式だけの宗教であるユダヤ教の人々から来ていました。イエス様も、使徒パウロも、自分達の伝統として形式だけのユダヤ教を守りたいと思っている人達から一番多く迫害を受けました。

イエス様はここで、それをサタンの会衆と呼んでいますが、ユダヤ教だけではなくてどの宗教でも形式だけの伝統として守られている場合は同じです。口先だけで神を敬って、心が神様から離れています。「わたしはあなたの苦しみと貧しさを知っている。――しかし、あなたは実際は富んでいる。」とイエス様に言われるのは最高の励ましです。しかも、教会全体でも、またはイエス様の信者一人だけでも、苦しみを受ける事は否定的な事ではなくて、更なる霊的な祝福と豊かさの保証です。去年の5月に「イエス様の美しさ」と題して山上の垂訓の八の至福と一緒にシリーズで見ましたが、一番最後には、全ての祝福の上に一番豊かな祝福は、イエス様の御名のゆえに迫害を受けることであり、イエス様はその時に喜び踊りなさいと言いました。

マタイ5:11-12 「わたしのために、ののしられたり、迫害されたり、また、ありもしないことで悪口雑言を言われたりするとき、あなたがたは幸いです。 5:12 喜びなさい。喜びおどきなさい。天においてあなたがたの報いは大きいのだから。あなたがたより前に来た預言者たちも、そのように迫害されました。」

もちろん、その苦しみがイエス様の名前のゆえに与えられているという事が正しく理解できていなければ、当然喜んで受け入れられません。イエス様の名前の為に与えられる苦しみとは何でしょうか？使徒パウロは誰よりもイエス様の名前の為に苦しみを受けてきました。パウロが召される最初からイエス様は言われました。

使徒9:16 「彼がわたしの名のために、どんなに苦しまなければならぬかを、わたしは彼に示すつもりです。」

一人の人間の人生でこんなに苦しみや痛みを経験しても、全てを乗り越えても、もっと経験したいと言っていました。でも、最初は肉体の弱さと言う形で苦しみを受けた時に、それを嫌がって神様に3回も祈って「これを私から、去らせて下さい」と祈りました。

コリント第二 12:7-9. 「また、その啓示があまりにも素晴らしいからです。そのために私は、高ぶることのないようにと、肉体に一つのとげを与えられました。それは私が高ぶることのないように、私を打つための、サタンの使いです。12:8 このことについては、これを私から去らせてくださるようにと、三度も主に願いました。

12:9 しかし、主は、「わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現われるからである。」

と言われたのです。ですから、私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう。」

キリストの教会とその信者の一人一人はどんな苦しみを経験しても、更なる霊的な祝福と豊かさを与えられて、それが一番霊的に強い時になります。それは特にクリスチャンとして迫害を受ける時ですが、それだけではなくて、どんな苦しみや痛みを受けても、病気や肉体的な弱さでも、神様の力は私達の弱さを通して完全に現わされていると書いてあります。パウロは祈りによってそれが分かった時、その弱さをも喜ぶ事が出来るようになり、もっと苦しみや弱さを経験したいと言えるようになりました。

ピリピ3:10-11. 「私は、キリストとその復活の力を知り、またキリストの苦しみにあずかることも知って、キリストの死と同じ状態になり、3:11 どうにかして、死者の中からの復活に達したいのです。」

迫害でも、病気や肉体の弱さでも、キリストの苦しみとして受け止めるなら、自己中心的な古い自分に対して死ぬ事によって全てを乗り越えるキリストの復活の力が自分をおおうようになります。イエス様の信者はどんな苦しみや痛みを受けても、それが否定的な経験ではなくて、更なる霊的な祝福と豊かさを与えられる経験になるということです。神様は私達を更に祝福したいため、守りとして痛みや弱さが許されます。痛み無しに更なる祝福を与えられたら、逆にその人間を駄目にしてしまうから、苦しみ、傷み、弱さは神様の守りなのです。人間的な考えで罰と言うようなものではなくて、逆に更なる祝福を受ける為の守りです。しかも、苦しみが大きければ大きい程、後の祝福も大きいです。ですから、イエス様の教えは人を苦しめる為ではなくて、祝福される為にあるということがわかったら、次の言葉も喜んで受け入れられます。

ルカ9:23 「イエスは、みなの方に言われた。「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。」

### 3. イエス様の約束 (2:10)

黙示録2:10 「あなたが受けようとしている苦しみを恐れてはいけない。見よ。悪魔はあなたがたをためすために、あなたがたのうちのある人たちを牢に投げ入れようとしている。あなたがたは十日の間苦しみを受ける。死に至るまで忠実でありなさい。そうすれば、わたしはあなたにいのちの冠を与えよう。」

イエス様はここでも、先ず第一に恐れてはいけない、と言って平安を与えられると同時に永遠の命の冠りを約束しています。

苦しみの中にいる時に平安と喜びを持つ為には何が一番大切か、その答えがイエス様の自己紹介の言葉に含まれています。イエス様の自己紹介の言葉に戻ってみると説明出来ます。「最初であり、

終わりである。」の意味は全能の神様として全てを支配しておられるということです。「最初であり、最後である」とイエス様が言った意味をもう一度みましょう。

黙示録1:8「神である主、常にいまし、昔いまし、後に来られる方、万物の支配者がこう言われる。「わたしはアルファであり、オメガである。」

イエス様は全ての主権を持って全てを支配して下さっていると言う意味です。試練の中にいる時にそれを忘れない事が一番大切です。サタンはイエス様の許される限りしか動けません。好き勝手に動けないです。

コロサイ人2:15「神は、キリストにおいて、すべての支配と権威の武装を解除してさらしものとし、彼らを捕虜として凱旋の行列に加えられました。」

これを忘れてしまってサタンが好き勝手に自分を攻撃出来ると思ってしまうと、誰でも怖くなって平安を完全に失ってしまいます。誰に対して、どの形で、どれ程のことを試すことが出来るのか、それはイエス様が決める事です。それで、イエス様はスミルナにいる信者達にその期間をはっきりと言いました。他の聖書箇所にもそれが見られます。

コリント第一10:13「あなたがたのあった試練はみな人の知らないようなものではありません。神は真実な方ですから、あなたがたを耐えることのできないような試練に合わせるようなことはなさいません。むしろ、耐えることのできるように、試練とともに、脱出の道も備えてくださいます。」  
クリスチャンではない日本人の間でもこの言葉の一部が引用されていますが、残念ながら、御言葉として知らないままで引用しています。

それともう一つ大切な事はその苦しみの目的を理解する事です。「あなたがたを試す為に」と書いてありますが、それを言い換えるなら、あなた方の信仰を更に強めてそれによってもっと神様の栄光を現わす人になるため、という目的です。本物の信仰は試されなければなりません。人間に与えられている能力は全て同じ法則に従って働いています。肉体の力も、頭の能力も、霊的な賜物として与えられている信仰も、戦いによって鍛えられて更に素晴らしい物として成長して全うされていきます。

ヤコブ2:20-22「ああ愚かな人よ。あなたは行ないのない信仰がむなしいことを知りたいと思いますか。21 私たちの父アブラハムは、その子イサクを祭壇にささげたとき、行ないによって義と認められたではありませんか。22 あなたの見ておるとおり、彼の信仰は彼の行ないとともに働いたのであり、信仰は行ないによって全うされた」

アブラハムの信仰の行いは何でしたか？神様に大変な試練として自分の息子を犠牲にするように言われましたが、その試練を通してアブラハムの信仰が働いて全うされ、神様に栄光を返しながら、神様の祝福を受ける事が出来ました。試練がなければ、信仰が働いて成長する事が出来ないの、逆に試練を受ける事は必要で、それはクリスチャンにとって本物の信仰を持っている証拠の一つです。1月10日の礼拝でイエス様の7番目のI Am～「私はある」という断言についてお話した時、違う言葉で試練について見る事ができました。

ヨハネ15：2「わたしの枝で実を結ばないものはみな、父がそれを取り除き、実を結ぶものはみな、もっと多く実を結ぶために、刈り込みをなさいます。」

切り込みは当然、傷みが伴う事ですが、それを経験する枝にとって既に実を結んでいる証拠ですし、そして切り込みの目的は更なる実を結ぶためなのです。

#### まとめ

イエス様は、スミルナの教会の信者達に言ったように私達にも言っています。「死に至るまで忠実でありなさい。」と言って、そしてそれに対して素晴らしい約束をして下さっています。

黙示録2：11「耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。勝利を得る者は、決して第二の死によってそこなわれることはない。」

先週見ましたが、勝利を得る者は「最後まで私のわざを守る人」です。最後まで信じ続ける人は神様の全ての約束を真実として証明させて頂くのです。永遠の命を与えられると同時に万物の支配者は私たちの髪の毛一本でも損なわれない事を約束して下さっています。